

2025年11月26日  
シスメックス株式会社

## 【発表概要】

第44回日本認知症学会学術集会

## 全自動免疫測定装置を用いた血漿 p-tau205 試薬の開発

発表者	村上 駿、石木 健吾、田中 瑞、山下 和人、三浦 雅央、佐藤 利幸  シスメックス株式会社 中央研究所
発表概要	<p><b>背景</b></p> <p>アルツハイマー病（AD）に対する疾患修飾薬の登場に伴い、脳脊髄液（CSF）や血液バイオマーカーによる検査が注目されている。中でもリン酸化タウの一種である p-tau205 は、脳内タウ蓄積を反映するバイオマーカー候補として報告されている。我々はこれまで CSF 中の p-tau205 を対象とした測定技術の開発に取り組み、免疫沈降-質量分析法と高い相関を有する試薬を構築したことを報告している。</p> <p>本発表では、より簡便な検査実現を目指した血漿中 p-tau205 を標的とした測定試薬について、その分析性能および病態との関連性を報告する。</p> <p><b>方法</b></p> <p>血漿 p-tau205 測定試薬は、全自動免疫測定装置 HISCL™-5000 を用いて開発した。分析性能として感度、希釈直線性、同時再現性等を評価した後、市販血漿検体（AD=10、認知機能正常者=9）を測定し、病態との関連性を評価した。</p> <p><b>結果</b></p> <p>測定範囲は 0.5~55 pg/mL、同範囲内の希釈直線性は理論値の 99~110%であり、同時再現性は変動係数 3.8%以下であった。血漿中の p-tau205 濃度は AD 群で有意に高値 (<math>p &lt; 0.01</math>) であった。</p> <p><b>結論</b></p> <p>開発した p-tau205 測定試薬は良好な分析性能を有しており、血漿マトリクスの影響を受けずに p-tau205 を測定できる可能性が示唆された。また本試薬で測定された p-tau205 値は AD 群において有意に高く、AD の病態進行状態を反映している可能性がある。</p>
セッション	臨床系：アルツハイマー病（生化学、遺伝子） / P065